



Horszowski Trio

[ホルショフスキ・トリオ]



ヴァイオリン：ジェシー・ミルス/チェロ：ラーマン・ラマクリシュナン/ピアノ：相沢吏江子



Program

1 部

Schumann: Piano Trio #1 in d minor, Op.63
Wuorinen: Piano Trio (1983)

2 部

Shostakovich: Piano Trio #2 in e minor, Op.67

<曲解説>

チャールズ・ウォリネン (Charles Wuorinen) は現在アメリカを代表する作曲家です。数学的理論を作曲の礎としており、複雑で幅広い跳躍等々、技術的にも難易度の高い曲が多いことで知られています。今回演奏するピアノトリオは、1983年アーデン・トリオにより初演されました。

2018年11月7日[水]

18時開場 / 19時開演

昭和 문화小劇場 (地下鉄川名駅より徒歩2分)

【チケット料金】

一般 / 前売り：4,000円 (当日：4,500円)

学生 / 2,000円 (ルンデ WEB 申込のみ、
大学生以下)

*8月7日チケット販売開始

[チケット購入はこちらから](#)

ルンデ：<https://dbf.jp/runde/c181107/>

【問合せ先】runde@dbf.jp / 052-671-3074



『花束よりチケットを』

ルンデでは出演者へのプレゼント・差入れは全てお断りしております。そのお気持ちをチケットにかえて、ご家族、ご友人とお越しいただきましたらうれしく思います。



Horszowski Trio

[ホルショフスキ・トリオ]

2011年のホルショフスキ・トリオ結成のニュースは、個々のメンバーのキャリアが高く認識されているアメリカの音楽界で、大きな反響を呼んだ。結成発表のわずか数週間以内に、ニューヨーク、ボストン、ワシントン、フィラデルフィア、ロサンゼルス等、アメリカ主要都市を含める30カ所以上の演奏会がすぐに決定。その後、インドツアー、2014年の日本ツアーなど国際的な活躍へと発展し、その評価を着実に上げている。

2014年、米国レーベルのブリッジ・レコード社からCDをリリース、英国グラムフォン誌からも高い評価を受けた。

2018年は、恩師ホルショフスキの没後25年にあたることから、二度目の日本ツアーが計画されている。

ヴァイオリンのジェシー・ミルスは、ニューヨークで生まれ育つ。ナクソスからリリースされた数々の録音の中で、シェーンベルクのシリーズにおいて、既に二度、グラミー賞にノミネートされた。才能の幅は広く、作曲と編曲の他、ジャズも演奏し、チック・コリアや小曾根真とも共演している。

ノーベル賞受賞の化学者の父を持つ、チェロのラーマン・ラマクリシュナンは、ハーバード大学で物理を専攻し、優等賞を得て卒業。その後、本格的に音楽に専念し、ダデラス弦楽四重奏団の創立メンバーとして11年間活動し、室内楽界での高い地位を築き上げた。

ピアノの相沢吏江子は、内田光子の推薦で、13歳の時、カザルスホールでアレクサンダー・シュナイダーと共演。その直後、カーネギーホールとケネディーセンターでコンチェルト・デビューし、アメリカへ移住。ニューヨーク・タイムズに「深い感銘を与える才能」と評され、アメリカ、ヨーロッパ各地で、常に高い評価を得ている。



ミルスとラマクリシュナンは、幼少時代からの音楽仲間で、後にニューヨークで、相沢と知り合った。三人は、音楽界のメッカ、ジュリアード音楽院、マルボロ音楽祭等で研鑽を積み、その豊かな経験と長年の友情は、お互いの信頼関係を深くしていった。そして2011年、偉大なピアニスト、ホルショフスキ (1892-1993) への敬意の元、未亡人の賛同と支援を得てトリオの結成が決定した。相沢は、カーティス音楽院でホルショフスキの最後の弟子でもあり、三人は、ホルショフスキの暖かく喜びに溢れた音楽には勿論、彼の誠実で謙虚な人柄からも強くインスピレーションを受けていることから、「ホルショフスキ・トリオ」の名前が生まれた。

彼らのレパートリーは広く、伝統的な作品から、アメリカのJ.ハービソン、C.ウォリネン、N.ローレムといった、難曲の現代作品も含まれている。また、ホルショフスキ自身が交流を持っていた、ラヴェル、フォーレ、そしてサン＝サーンス、ヴィラ＝ロボス、マルティヌー、グラナドスといった作曲家の稀で貴重な作品も、積極的に取り上げている。

ホルショフスキ・トリオは、ニューヨークを拠点に活動を展開しているかたわら、ロンジー音楽院で後進の指導にも力を注いでいる。2016年には、ロンジー音楽院のレジデントアンサンブルに選ばれ、ベートーヴェン・チクルスなどを行い話題となった。

2017/18シーズンには、ブリッジ・レコード社からシューマンのピアノトリオ全曲、ブラームスのピアノ四重奏曲全曲のレコーディングが予定されている。

2019年には、ロンドンのウィグモアホールへの出演を含むヨーロッパツアーも計画されている。